

Native Place of Streetcar

市電のふるさと

NO.17

2007



〈市電の会賛助会員 野村耕一氏撮影〉

Head Line

もくじ

- 1～2 ● 特集1 市電沿線ぶらりまちあるきマップを作成
- 特集2 「さっぽろを元気にする路面電車検討会議」の提言書
- 3～4 ● トピックス
- 5～6 ● ニュース
- 7 ● お知らせ

市電沿線ぶらりまちあるき マップを作成しました

当会では、中央区と協働して「市電沿線ぶらりまちあるきマップ」を作成しました。概要については以下の通りです。

1 作成目的

市電に関するエピソードや沿線の歴史、文化、自然、見どころなどの魅力を掘り起こして発信することにより、中央区民に「わがまち」を再認識する機会を提供し、広く市民や観光客が市電を利用し、沿線を訪れるきっかけを作ることを目的としています。

2 実施主体

平成18年度中央区の個性あふれる提案事業として決定されたものであり、平成18年5月30日(月)に開催された市電の会の総会において、中央区と協働で実施する事業として承認されました。

3 情報の収集

マップに掲載する情報を広く求めるという趣旨から、以下の方法を取りました。

(1) 平成18年7月31日に、インターネット上に公開した地図の上に自由に市電沿線の魅力資源の情報や市電にかかわるエピソードを書き込むことのできる「カキコまっぶ」を開設。

(2) 8月15日には、中央区内の各施設に情報募集のチラシを配布するとともに、広報さっぽろ9月号で紹介した他、8月19日(土)に電車事業所周辺で行われた市電フェスティバル(3ページ①参照)にて広く情報収集を呼びかけました。

4 マップの企画・編集及びウォーキングイベントの実施

具体的にはマップの作成方法について検討するため、市電の会賛助会員や中央区内の様々なまちづくり団体に属しているボランティア等9名で構成する「企画編集会議」を設置。情報収集作業と平行しながら、8月21日の第一回会議から3月22日まで計7回開催。収集した情報の整理やまちあるきコースの設定、シリーズものとしての発行、マップの表現方法、デザインなどについて熱心に話し合いました。

5 マップの内容及び発行時期

(3) 9月から10月にかけて、市電やその周辺に詳しい沿線の町内会や商店街、中央区のまちづくりに携わるNPOを対象に5回の情報交換会を開催し、地元の人や市電に興味を持つ人ならではの貴重な情報を多数収集しました。

また、収集した情報を基に企画編集会議の委員と地元住民によるウォーキングイベントを10月25日(水)と27日(金)の2回実施。まちあるきのルートが適切か、寄せられた情報が正確かなどの情報の検証も行いました。

6 マップの今後の活用

区役所など市内公共施設や観光案内所などで配布するほか、マップを活用したまちあるきイベントの開催などにより、マップのPRに努めることとしていきます。



※ 各号ともB4、4つ折、両面フルカラー

「さっぽろを元気にする路面電車検討会議」の提言がまとまりました。

路面電車をどのように活用していくかということについて「市電のふるさと第16号」でも報告していますが、その後「さっぽろを元気にする路面電車検討会議」により議論が進められ、昨年9月15日(金)に「さっぽろを元気にする路面電車活用の方」と題した提言が市長に手渡されました。



1 提言の概要は次のとおりです。

1 活用の基本的な考え方

「交通機関」としてだけでなく、「まちや市民を元気にする道具」として、路面電車の様々な特性等を積極的に活かし、都心の賑わいの創出や地域・産業の振興等、まちの活性化に貢献することを活用の基本的な考えとする。

2 これからの路面電車活用のあり方

- ① 利用の実態・ニーズに合わせた運行サービスの向上及び収支改善が必要である。
- ② 利用者を増やして人の動きを活発化することにより、まちを活性化するための社会的役割を持たせる必要がある。そのためには、沿線の観光資源を活用した観光客・市民等の利用者の掘り起し、料金面や沿線施設と連携したサービスの向上についても検討

討を行なう必要がある。

また、バリアフリーの観点から、路面電車そのものを使いやすく魅力的な乗り物へと価値を高めるべきであり、老朽車両更新の際には低床車両を導入すべきである。

- ③ 沿線地域の活性化に向けて、路面電車と大通公園・中島公園・藻岩山等の各施設との接続が便利になるように接続性を向上させる必要がある。また、電車事業者と様々な主体による取組みを促進する枠組みを設け、様々な事業連携・参画を促すことが必要である。

このような取組みを通じて、路面電車と沿線施設を有効に活用しつつ、文化を継承し、人づくりや地域づくり、観光促進をはじめとする経済の活性化につなげていくべきである。

3 都心の活性化と路面電車

- ① 中心市街地の活性化に向けては、「まち歩き」が楽しくなる魅力的な空間を創ることが重要であり、都心全体の面的な広がりや考慮し、楽しく、のんびりと歩いて巡れるように回遊性を高める必要がある。

都心を抵抗なく歩く距離には限界があることや、高齢化社会の進展等を考えると、歩くことを基本にしながら交通手段を補助的に組み合わせる考え方が重要であり、「まち歩き」を楽しむ、都心内の回遊性を高める道具として、積極的に路面電車を活用することが望ましい。

- ② 都心におけるまちづくりの方向性と再整備の事業動向を踏まえ、沿線の魅力・賑わいづくりに向けて、路線整備を考えていくなど、都心再整備の機会を捉えた一体的・総合的なまちづくりを行なうことが重要である。
- ③ 都心部での回遊性を向上する観点から、「札幌

駅周辺」「大通」「すすきの」の3地区を結ぶために路面電車を延伸することが必要である。また、都心のまちづくりの方向性や事業の動向等を踏まえ、東西方向への面的な広がりを果たせることが望ましい。その際、JR札幌駅、地下鉄の都心各駅、バスターミナルとのネットワークを形成させ、都市交通システムとしての質的向上を図ることが重要である。

- ④ 車両については、都市景観や美しい街並みとの調和を図るため、架線レス車両等、デザイン面、技術面での検討を進め、軌道の敷設位置については、交通バリアフリー等の観点から、路側走行方式も含めて検討を進めるとともに、車両や電停等も含め、トータルデザインを考えていく必要がある。

さらに、路面電車が市民・観光客から愛され、札幌の新しい生活価値や魅力を創造するためには、世界に向けて誇れるような札幌のまち全体のトータルデザインを構築していく必要がある。

- ⑤ 都心部で路面電車を活用するにあたっては、交通事業者・行政機関・事業者・企業、そして市民が連携して交通課題の解決に取り組むべきである。

4 まちづくりと路面電車事業

- ① 路面電車の価値や効果については、単なる交通機関としての直接的な効果や事業採算性だけにとらわれず、社会的便益を多面的に捉えて評価する必要がある。

② どのような経営形態であっても、公共交通にとつて一番重要な安全性と信頼性を確保できる仕組みとし、運行コストを運賃収入等で賄える経営体質とすることが重要である。そして、路面電車に関する様々なコストやメリットを明らかにし、どのような経営形態や経営手法が望ましいのか、どの程度までの行政負担が望ましいのかについて整理をしたうえで、市民の理解と適切な判断を得ることが重要である。

また、これまでのように個別の経営主体の問題として考えるのではなく、都市全体を経営する観点や公共交通全体をコーディネートする観点から、これからの路面電車の経営を考えることが重要であり、地域社会全体の課題として、札幌市をはじめ様々な主体が関わって路面電車の経営を支えていくことが必要である。

Topics 1

市電フェスティバル開催



平成18年8月19日(土)、電車事業所(南21条西16丁目)及び隣接する市立伏見小学校サブグラウンド(南22条西15丁目)で、市電フェスティバルが行なわれました(主催:札幌市交通局、財団法人札幌市交通事業振興公社、札幌市中央区)。

好天に恵まれ、約7,000人の方が来場し、市電と綱引き、市電と写真撮影、露店での食事などを楽しんでいました。

市電の会では、賛助会員15名がボランティアとして市電の会ブースの運営に参加し、「市電沿線ぶらりまちあるきマップ」に掲載する情報の募集、賛助会員の募集などを行うとともに、当会賛助会員で水彩画鉛筆画家鈴木周作氏の絵画展も行ないました。

今年度は8月19日(日)に開催する予定で皆様のご来場をお待ちしています。



Topics 2

「第1回市電ナイトフォーラム」が開催されました

まちづくりセンター活用事業の一環として、山鼻未来・ネットワーク協議会の主催により、平成18年10月23日(月)「市電ナイトフォーラム」が開催されました。これは、札幌市電の存続が決まった今、市電が山鼻地域にとって重要な乗り物であるという視点だけでなく、まちや地域、市民が元気になる道具として再認識することを目的に、市電車内で下記のスケジュールで行なわれたもので、約30名の参加がありました。

第1幕では、参加者が自己紹介をしたあと、「市電沿線ぶらりまちあるきマップ」作成のための市電についての情報交流を行い、①市電のエピソード②歴史を感じさせるもの③自然にふれられる場所④芸術・文化施設のほか、地域に親しまれている祭りなどの行事⑤立ち寄りたくなるお店や場所をテーマに情報を持ち寄り、市電と沿線の魅力について話し合い、あらためて市電の魅力に触れました。

休憩後の第2幕では、今回の趣旨に賛同して食べ物を提供していただいた市電沿線の店の味を楽しみ、ギター(高橋宏二氏)とトランペット(中嶋和哉氏)の素晴らしい演奏に耳を傾けながら、わがまちへの思いなどを語りつつ、市電が通るまちの魅力を満喫しました。



スケジュール

第1幕	17:00 電車事業所を出発	第2幕	18:30 電車事業所出発
	17:30 西4丁目着		18:50 すすきの着
	17:45 西4丁目出発		19:00 すすきの出発
	18:15 電車事業所着(休憩)		19:30 電車事業所着(解散)



Topics 3

長崎で全国路面電車サミットが開催されました。

平成18年10月20日(金)～22日(日)にかけて、第8回全国路面電車サミット長崎大会が開催されました。市電の会をはじめとした18団体が参加して行なわれたこのサミットでは、路面電車がまちづくりに果たす役割といった観点からの意見交換が活発になされました。最終的には下記掲載のサミット宣言を採択して閉幕、次の開催地は福井市となりました。

<サミット宣言>

第8回全国路面電車サミット長崎大会会長 坪口 満明

第8回全国路面電車サミット長崎大会、サミット宣言。

我々、路面電車に関わる日本各地の愛好団体、運営事業者並びに行政関係者は、特色ある歴史と文化のまち、ここ長崎において、第8回全国路面電車サミットを開催し、熱心な討議を重ねた結果、ここに以下のとおり宣言を致します。

一、われわれは、路面電車を初めとする公共交通のネットワークが都市における人の流れの動脈であり、必要不可欠な社会基盤であるとの立場をより明確にするための支援活動を行う。

一、われわれは、全国に共通する、または各地域に固有の路面電車に関わる現状と課題をより深く認識し、互いに協力して知恵を出し合うことによって、課題の解決を目指す。

一、われわれは、新しい公共交通のシステムであるLRTが将来において、さらに活用されるべき公共交通機関の一つであると認め、先進地の事例を参考にしつつ、その実現を目指す。

一、われわれは、公共交通のさらなる充実と利便性向上こそが地域社会の発展に寄与するための重要な手段であるとの認識の上で、相互の連携によってまちづくりに活用されるべく建設的提言を行う。

一、われわれは、少子・高齢化や都市の拡大などに伴う過度の自動車に依存した社会構造から、広く地球環境にも配慮した持続可能性の高い社会へと転換するために、交通問題のスペシャリストとしての立場から、ソフト・ハードの両面に関わる具体的な行動を起こす。

さらに願わくは鎖国が行われていた江戸時代、長崎に集められた世界の知的財産の結晶が、やがて新しい時代を切り拓く原動力になったように、英知と勇氣と情熱をもって、ふるさとの理想とする未来を築き上げたいものである。

平成18年10月21日、全国路面電車愛好支援団体協議会、全国路面軌道連絡協議会、第8回全国路面電車サミット長崎大会実行委員会。



Topics 4

イルミネーション電車の運行

札幌の観光や商業、交通などの魅力アップと活性化に貢献しようと、平成19年1月13日(土)～3月4日(日)にかけて、イルミネーションで車体を装飾した電車が運行されました。これは、札幌を愛し札幌のまちづくりを応援していこうという企業・団体・市民有志の発案で、さっぽろイルミネーション電車プロジェクト実行委員会を設立。ホワイトイルミネーションや雪まつりのほか、「藻岩山の灯りと雪の造形イベント」、沿線地域で取り組む冬のイベントなどと連携して市民や観光客の目を楽しませました。

車両に刻まれた藻岩山の自然を描いたデザインは、札幌市立大学の学生が担当し、取り付け作業は市電の会事務局を含む市民ボランティア延べ80名が参加して行われました。

また、この電車の通常運行に先駆け、1月12日(金)には運行記念式典が電車事業所で開催されました。同式典では、イルミネーション電車プロジェクト実行委員会委員長に就任した市電の会会長の吉中新太郎氏らの挨拶のあと、イルミネーション電車の製作に携わったボランティアを乗せて、電車事業所からすすきの電停まで間の試走が行われました。



News

1

傘の無料貸し出し3年目に突入

平成17年より行われている傘の無料貸し出しは今年も実施されています。これは、市電や地下鉄で忘れ物となったままの傘を利用したサービスで、貸し出し期間は4～11月、昨年度は延べ4,603人の方が利用しました。利用後の返却を呼びかけていますが、平成17年は57.9%あった返却率が昨年度は48.2%に減少しました。帰りがけの予想外の雨のときなどに非常にありがたいサービスなのですが、これもまた利用者の返却があってこそできるサービスとのこと。利用した傘の返却は、市電車内の傘立てに戻すか、地下鉄各駅の事務室内に持っていくことになっています。これまで1両あたり10本の傘を用意していましたが、今年からは12本に増やしサービスアップも図っています。今後、利用者のマナー向上が事業継続の鍵になります。



News

2

中央図書館でさっぽろの市電展開催

札幌の路面電車の歴史を振り返る「さっぽろの市電展」が、札幌市中央図書館で平成18年10月21日(土)～平成19年1月21日(日)まで開かれました。

全国で路面電車が消えていく中、都市交通の今後の展望と再考のきっかけになればと行われたもので、市営になる前の大正時代の写真から今年の路線図まで、同図書館と札幌市交通局が所蔵する資料約32点を展示し、市電のこれまでの歩みや大きな変遷をたどるものとなりました。



NEWS

3

ウェルカムフラワープランを実施

みどりとうるおいのある都心空間の創造を目指し「みどり豊かな都心づくり事業」の一環として札幌市みどりの推進部が実施する「ウェルカムフラワープラン」に市電沿線にある西線商店街振興会（瀬尾 昌弥 会長、中央区南4条～南6条西14・15丁目）が参加し、道行く市民の目を楽しませました。

この事業は、企業と行政との協働によるみどりを主体とした良好な街路景観づくりに取り組むもので、札幌市がフラワーポットを貸与し、企業（店舗）がそれを設置し、コニファーや一年草などを植栽管理するものです。

今年も昨年同様、瀬尾米穀店他22店舗の入り口などに大型フラワーポット30基の設置を継続する予定です。



NEWS

4

絵本探検電車が運行されました

平成19年2月19日（月）～21日（水）にかけて、札幌市の主催による絵本探検電車が運行されました。

これは、路面電車を活用した、沿線施設・地域との連携のあり方を検討するため実験的取り組みとして行われたもので、円山動物園の動物やササラ電車の登場する絵本「おぼけのマールとゆきまつり」「おぼけのマールとまるやまどうぶつえん」を電車の中で子供に読み聞かせ、登場する動物や電車のことを知ってもらい、愛着を感じてもらうこととともに、協働による人と人との関わり大切さを学んでもらい、さらに資生館小学校で行われている資生館雪まつりに参加してもらうことで地域の活動についても知ってもらおうというものです。



当日

は、午前9時28分に西4丁目電停を发车、絵本の読み聞かせを行いながら電車事業所へと向かった。途中電車事業所に停車して電車事業所を見学、再び電車内での読み聞かせの後、資生館小学校前電停で下車、資生館雪まつりで展示されている「おぼけのマール」を見学、雪遊びに参加しました。

3日間で31名の親子が参加し、電車のちょっと変わった活用を存分に楽しんでいました。



お知らせ

1

札幌市電関連のおもちゃが発売されました

昨年中に札幌市電に関するおもちゃが2点発売されました。

ひとつは「札幌市電M101光センサー」で、これは、黒い線を紙の上に描くと、光センサーが反応して人気車両の市電M101がその線の上を走るというものです。市電沿線の施設や藻岩山などを紹介した路線図もついており、そこに描かれた市電の路線を走らせることもできます。1,700円(税込)での販売となっています。

もうひとつは、「レールまっふ札幌市電3300形」です。これは、札幌中心部を描いた絵に設置された路線の上を市電が走るというもので、タカラトミーから発売されている他のプラレールシリーズとの接続も可能なものとなっています。こちらは2,500円(税込)での販売となっています。

いずれの商品も市営交通PRコーナー(地下鉄大通駅、札幌市交通案内センター内)にて販売しております。



お知らせ

2

「市電の会」賛助会員募集

市電の会では賛助会員を募集しています。市電の好きな方ならどなたでも入会できます。年会費は、個人1,000円、団体10,000円。会員には会員バッジと特製ウイズユーカード「さっぽろ市電歴史シリーズ」(500円)を差し上げるほか、会報「市電のふるさと」をお送りします。

入会をご希望の方は、中央区役所や区内の各まちづくりセンターでお渡しする入会申込書に会費を添えてお申してください。また、郵便局からの振込もご利用いただけます。(「払込取扱票」(赤色)に口座番号02740-6-94026と加入者名を「市電の会」と記入のうえお振込ください。振込手数料はかかりません。)

さらに、インターネットによる受付も行っています。詳しくは、中央区ホームページの「市電倶楽部」をご覧ください。

URL <http://www.city.sapporo.jp/chuo/>

申込・問合せ

市電の会事務局
札幌市中央区南3条西11丁目
札幌市中央区役所地域振興課(まちづくり調整担当)
TEL(011)231-2400内線253 FAX(011)511-7234